

高畑 枝理子 氏の学位審査結果の要旨

主査：塩島 一郎

副査：西山 利正、松田 公志

先天性水腎症は腎盂や尿管が先天性に拡張している病態で、これまでの報告では全出生児の 1～5%にみられるとされる。grade 1～4 で重症度分類がされ、軽症に当たる grade 1～2 は自然軽快することが多いと言われているが、日本人における先天性水腎症の有病率やその自然経過に関する大規模な検討はこれまでなされていなかった。

そこで申請者らは 2014 年から 2016 年の間に附属病院で 1 ヶ月検診を受診し同意が得られた 1009 名を対象に腹部超音波検査をおこなったところ、100 例 118 腎 (9.9%) に水腎症をみとめた。重症度としては grade 1 が 87 腎、grade 2 が 30 腎、grade 3 が 1 腎、grade 4 は 0 腎と、ほとんどが軽症であった。2 年間経過観察したところ、grade 1 は 99%、grade 2 は 60%が自然軽快し、水腎症悪化例、尿路感染症発症例、外科手術を必要とした例はなかった。以上の結果より、grade 1 の先天性水腎症は基本的に follow up の必要はなく、grade 2 については年 1 回程度の超音波検査で経過観察するのが望ましいと考えられた。

本研究はこれまで不明であった日本人における先天性水腎症の自然経過を明らかにしたもので、その臨床的意義は大きいと思われる。